

序章 はじめに

序-1. 検討の背景

今日の都市を取り巻く環境は、高度経済成長期に拡大した都市構造の拡散とモータリゼーションの進展が重なり、交通サービスの低下、環境負荷や行政コストの増大など様々な課題が顕著になりつつある。また、少子化や超高齢社会の進展やライフスタイルの多様化に伴い、誰でも安心して快適な移動手段が確保できる都市環境の形成が望まれている。

このような交通分野における問題は、日本全国にみられ、日立市も例外ではない。日立市においては、20年程前から、自由度が高く、いつでもどこへでも移動できるマイカー利用の急激な増加により、公共交通、特にバス利用は減少の一途を辿っている。利用者の減少は、事業者の減収につながり、その結果、事業運営のために運行本数などのサービスレベルを下げざるを得なくなり、さらに利用者が減少する「負のスパイラル（循環）」に陥っている状況になっている。

近年、国では（仮）交通基本法の検討を進めており、その法案は「交通に対する基本的なニーズの充足、交通の機能の確保及び向上、交通による環境への負荷の低減、交通の適切な役割分担及び有機的かつ効率的な連携」等といった交通に関する施策の基本理念を定めるものである。人や物が移動することは生活する上で欠かせないものであり、さらに人が移動する基盤（道路や鉄道、バスなどの交通機能）が充実すれば、人との交流が生まれ、賑わいのあるまちづくりにつながるという考え方であり、今後、都市が抱える課題を解決するための進むべき方向を示すものでもある。

このような時代背景と今後の動きを踏まえ、日立市においても、公共交通の充実を求める声は年々高まってきており、行政としての積極的な関与や支援など、果たすべき役割は重要となってきた。

日立市では、平成17年に廃線となった日立電鉄線の跡地について、市の長期的なまちづくりの推進及び沿線地域の諸課題解決を図るために活用することを、平成21年3月に『日立電鉄線跡地活用整備基本構想』として取りまとめた。

それを受け、本計画は、自動車に過度に依存しない、歩いて暮らせるまち、つまり、誰でも安心して快適に、永く住み続けたいまちづくりのひとつのツール（道具）になるよう、跡地の一部を活用した公共交通施策の基本的な枠組みを検討するものである。

序-2. 検討の経緯

(1) 基本構想策定までの経緯

平成17年4月には、日立電鉄線（常北太田～鮎川間）が廃線となったことを踏まえて日立市が日立電鉄線跡地（以下、「跡地」という。）の利活用について検討を行い、平成21年3月に『日立電鉄線跡地活用整備基本構想』（以下、「基本構想」という。）として取りまとめた。

表 基本構想策定までの概略年表

年 月	事 項
平成17年4月	日立電鉄線（常北太田～鮎川間）廃線
平成20年3,8月	日立電鉄線跡地を市が取得
平成20年8月	跡地の利活用について、市が検討を開始 (検討委員会を設置)
平成21年3月	跡地の基本的な活用方針を定めた『日立電鉄線跡地活用整備基本構想』を策定



図 旧日立電鉄線 路線略図

(2) 基本構想の概要

基本構想の基本的な考え方は、次のとおりである。

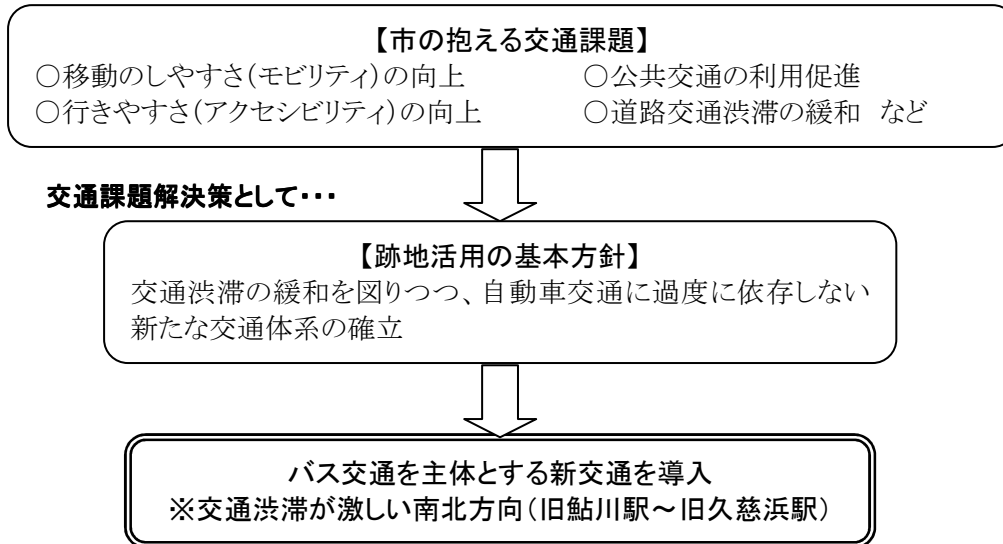


図 基本構想の概要

(3) 基本構想策定後の経過

基本構想に位置付けた公共交通施策について、市中南部地区における新たな公共交通軸の形成、快適かつ安全性の高い交通手段の確保、及び、道路交通渋滞の緩和を図るため、跡地を活用した新交通導入の可能性を関係機関（交通事業者、交通管理者、行政）で協議・調整した。

表 基本構想策定以降の概略年表

年 月	事 項
平成 21 年 6 月	第 1 回 日立電鉄線跡地 B R T 事業化調整会議
平成 21 年 12 月	第 2 回 日立電鉄線跡地 B R T 事業化調整会議 →新交通導入に向けた検討結果のとりまとめ

序-3. 検討の進め方

(1) 検討体制と役割

日立電鉄線跡地への新交通導入に向けた検討を行うため「日立電鉄線跡地新交通導入計画検討委員会（以下、委員会という）」を設置し、平成 22 年度中に 4 回開催した。（資料編：参考 3 参照）

委員会では、「運行計画」、「事業計画」や「実現に向けて取り組むべき施策」（後述）などソフト施策に関する事項について、主に検討した。「施設計画」などハード施策に関する事項は、関係機関との個別協議（専門部会など）の結果を報告し、検討事項の内容に反映した。

検討にあたっては、沿線の居住者・事業所・高校に対する利用意向調査を実施（H22.6）し、結果を委員会に報告して検討の材料とした（資料編：参考 2「利用意向調査の概要」参照）。本文中にも、【**利用意向調査の結果**】として必要に応じ概要を記載している。

(2) 検討の流れ

委員会は、下記に示す検討の流れに沿って進めた。

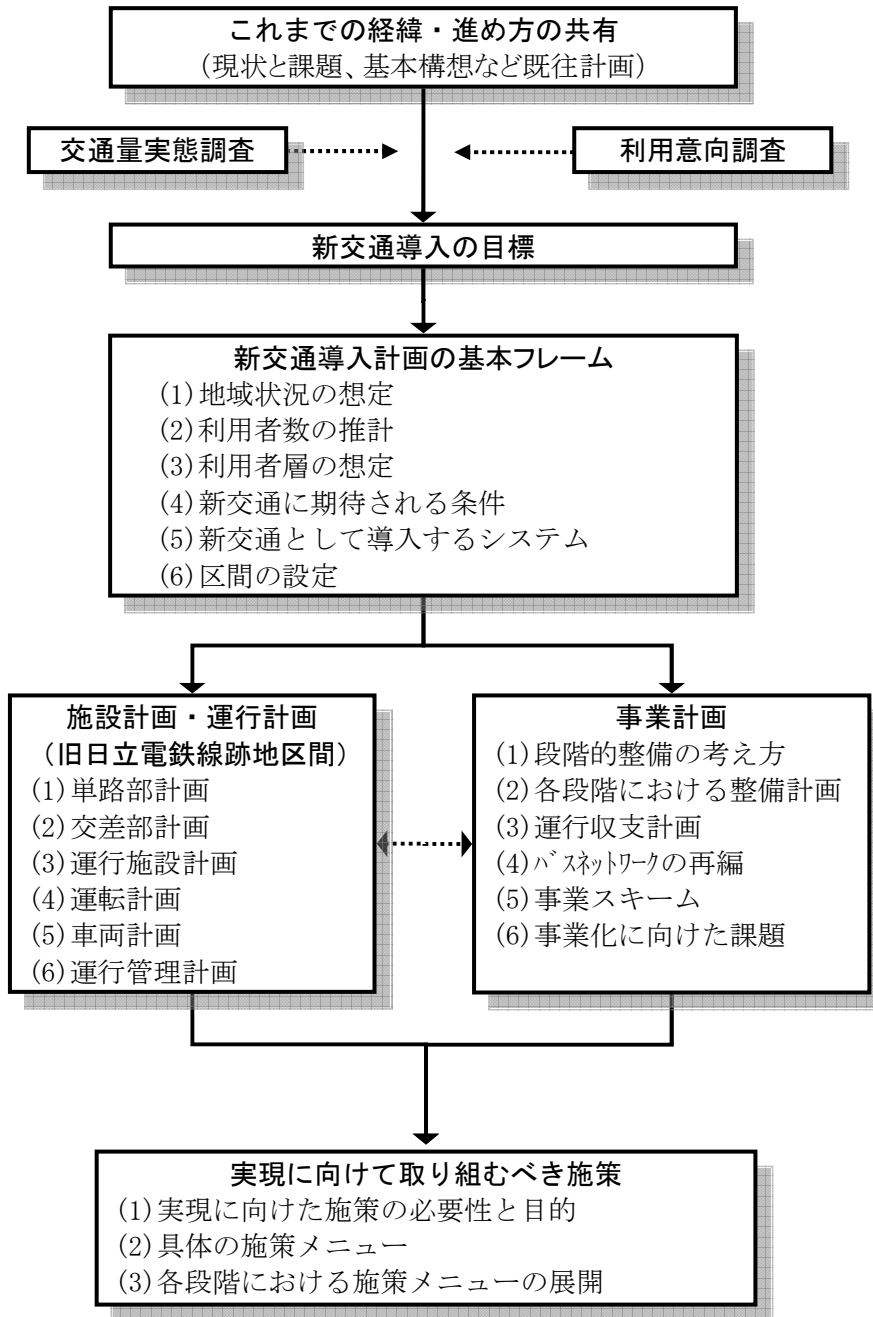


図 新交通導入計画検討委員会の全体フロー